

<第10回定時総会参考資料>

特定非営利活動法人
CAP センター・JAPAN

2010年度 報告書

<2010年4月1日～2011年3月31日>



目 次

	ページ
団体概要 2010 年度 組織運営体制 CAP トレーニングセンターとしての CAP センター・JAPAN 2
I. 組織運営について 5
II. 運営体制について 7
III. 団体の運営に関する事項 10
IV. 2010 年度事業について 11
V. 特定非営利活動に関する事項 13
(1) CAP プログラムを提供する各種人材の養成講座と 研修学習事業	
(2) 子どもへの暴力防止全般の学習・啓発事業	
(3) CAP に関する情報提供および相談事業	
(4) CAP に関する広報事業および出版事業	
(5) CAP 実践に関する調査およびプログラムの効果調査	
(6) 子どもの権利擁護と暴力防止に関わる個人および 団体との連携のための事業	
(7) その他	
ご支援いただいた個人および団体 27

本報告書は、総会議案をより理解していただくために参考資料として作成しました。
第 10 回定時総会議案書をお読みになる時にあわせてご一読ください。

特定非営利活動法人（NPO 法人）CAP センター・JAPAN の概要

1. 設立目的

特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN は、子どもへのあらゆる暴力を許さない社会を創ることをめざし CAP の普及を通して家庭や学校、地域の連携を強めている。また、CAP 活動を実践する人材の養成および研修事業、CAP グループへの情報提供及び相談などの支援事業、CAP グループおよび関係諸機関とのネットワーク推進事業などを実施し、子ども自身が人権意識をしっかりと持ち、子どもの人権が尊重される社会の実現に寄与することを目的とする。

2. 法人設立経過

1995 年 1 月	CAP センター・JAPAN の前身 CAP トレーニングセンター(JCAP)設立
1998 年 8 月	CAP センター・JAPAN の設立
2000 年 11 月	特定非営利活動法人設立総会開催
2001 年 5 月 11 日	特定非営利活動法人認証
5 月 14 日	特定非営利活動法人への登記を完了し法人設立

3. 特定非営利活動の種類

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) 地域安全活動
- (3) 人権の擁護または平和の推進を図る活動
- (4) 子どもの健全育成を図る活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助の活動

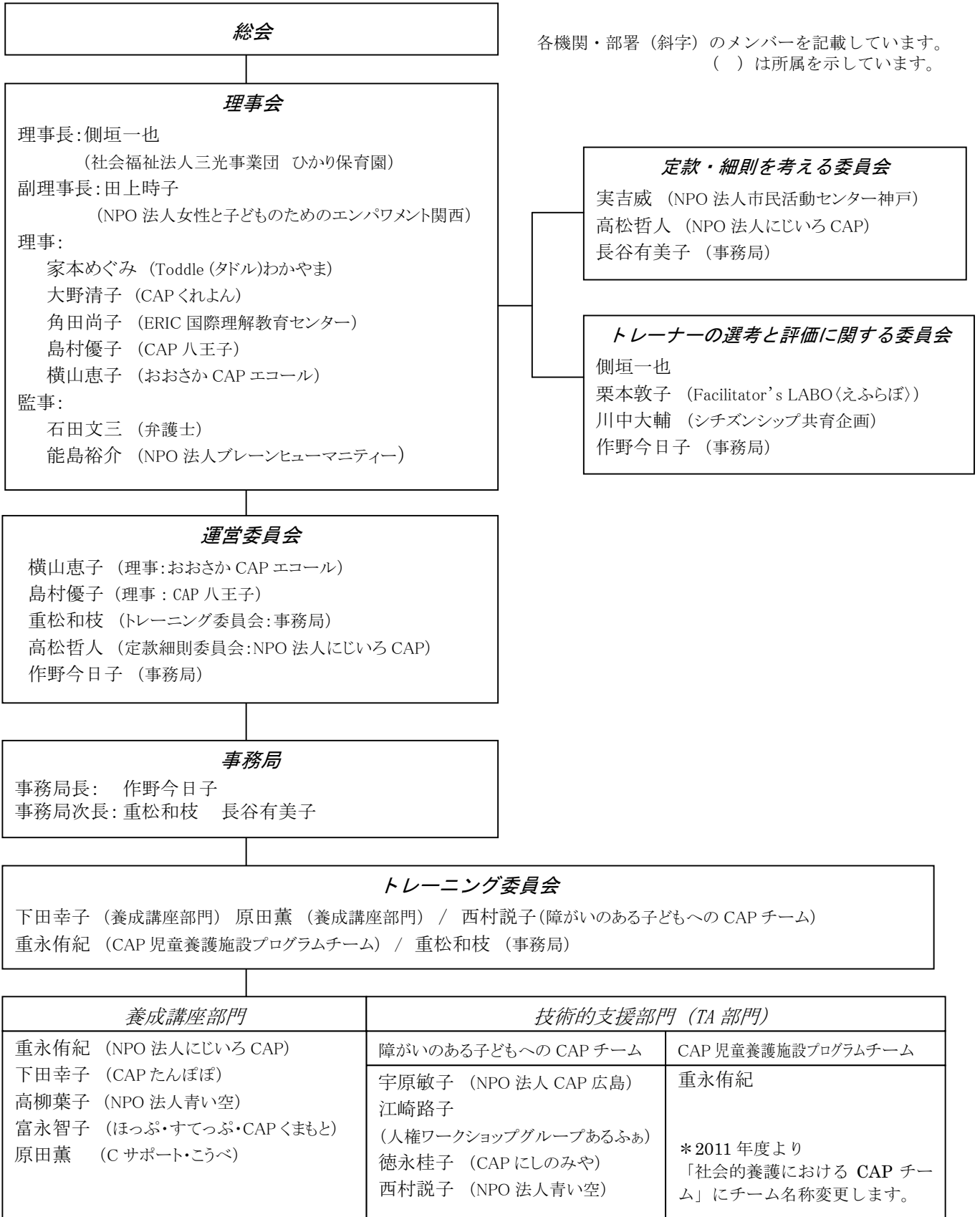
4. 主要事業

- (1) CAP プログラムを提供する各種人材の養成講座と研修学習事業
- (2) 子どもへの暴力防止全般の学習・啓発事業
- (3) CAP に関する情報提供および相談事業
- (4) CAP に関する広報事業および出版事業
- (5) CAP 実践に関する調査およびプログラムの効果調査
- (6) 子どもの権利擁護と暴力防止に関わる個人および団体との連携のための事業
- (7) その他、この法人の目的達成のために必要な事業

5. 役員名簿

理 事	家本めぐみ	大野 清子	角田 尚子
	島村 優子	側垣 一也	田上 時子
	横山 恵子		
監 事	石田 文三	能島 裕介	

2010 年度 組織運営体制



*2010 年度内に、プレトレーナー3 人が選任されました。

小倉明美 (CAP レラ・滋賀県)・重永侑紀 (NPO 法人にじいる CAP・福岡県)・西村説子 (NPO 法人青い空・東京都)

リージョナル トレーニング センター
**CAPトレーニングセンターとしての(以下、RTC:Regional Training Center)
 CAPセンター・JAPAN**

NPO 法人 CAP センター・JAPAN は、日本南部エリア 32 都府県の CAP トレーニングセンターです。

2008 年に CAP に関するすべての権限を持つ ICAP の組織改革が行われました。

2009 年 4 月には北部 CAP トレーニングセンター J-CAPTA が誕生し北部エリア 17 道県を担当しています。

アイキャップ

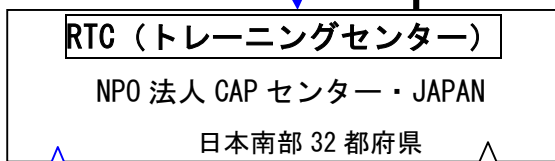
ICAP 国際暴力防止センター

International Center for Assault Prevention の略。

米国ニュージャージー州にある EIRC (教育支援情報センター) 研究所の一部門。CAP プログラムの全ての権限を持っている。



RTC 契約書を交わす



MOU を交わす



所属申請書

活動登録申請

資格取得証明申請

CAP スペシャリスト

2010 年度からは資格更新制度が導入されています。

◆RTC(アール・ティ・シー) リージョナル トレーニング センター Regional Training Center の略。◆

リージョナル・トレーニングセンター (CAP トレーニングセンター) の略です。ICAP から任されたエリアの本部として設立されます。ICAP が著作権を持つ CAP カリキュラムのエリアにおける唯一の配布者として権限を持ち、ICAP との間で「RTC 契約書」を交わします。

◆MOU (モウ) メモランダム オフ アンダースタンディング Memorandum of Understanding の略。◆

RTC と CAP グループが交わす活動に関する覚書。CAP プログラム実践活動を行うには 1 年毎に RTC と MOU を交わすことが必要です。(2010 年度までの「Memorandum of Understanding」の和訳「合意文書」を 2011 年度からは「覚書」と改めました。)

◆CAP トレーナー

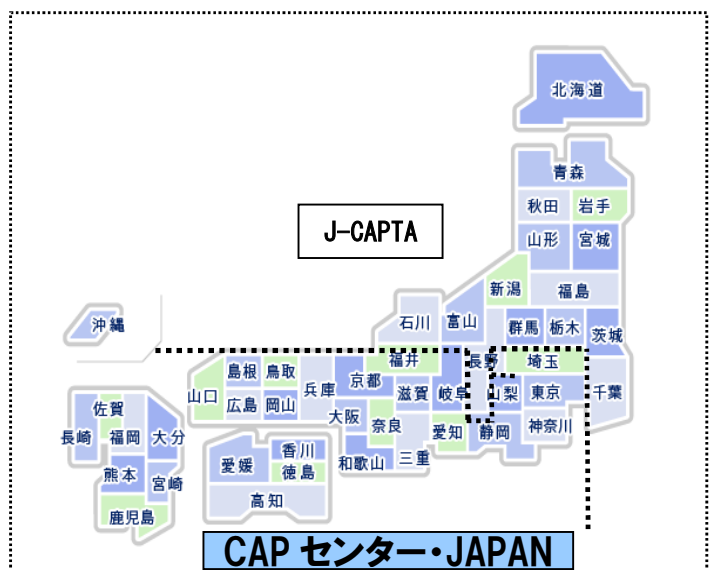
各カリキュラムのトレーニングを行う講師をすべて CAP トレーナーと呼びます。CAP センター・JAPAN には 5 人のベシクトレーナーと 3 人のプレトレーナー、さらにスペシャルニーズプログラムトレーナー 4 人がいます。

◆CAP スペシャリスト活動登録申請

グループに所属して CAP プログラム実践活動を行う CAP スペシャリストは、グループを通じて RTC への「CAP スペシャリスト活動登録申請」を行います。グループに所属しない場合は、「資格取得証明書」が手続きを経た後、発行されます。

◆CAP スペシャリスト資格更新制度

活動する CAP スペシャリストは、3 年毎に資格更新をします。資格更新のための必須研修はトークタイムです。



※CAP センター・JAPAN と MOU を交わした CAP グループについては当法人 HP をご覧下さい。http://www.cap-j.net

I. 組織運営について

2010年度運営方針 ※太字・斜字は第8回定時総会「議案提出にあたって資料<運営方針>」の項目です。

- (1) **財政の立て直しに取り組む**
- (2) **組織の課題の改善に取り組む**

1. 2010年度運営方針に関する振り返り

(1) 「財政の立て直しに取り組む」について

財政の立て直しを2009年度、2010年度の2カ年をかけて行なうとしていました。

CAPトレーニングセンター（以下、RTC: ^{リージョナル トレーニング センター}Regional Training Center）としてCAPセンター・JAPANが担当するエリアが南部エリア（32都府県）のみとなったことにより、会員数が減少し会費収入が減となった中、事業では第2事業として「子どもへの暴力防止のための基礎講座」、第1事業として「CAPスペシャリスト養成講座・実践編」という新たな取り組みや新規講座、年間テーマを掲げての専門職研修にチャレンジしました。さらに他団体との協働による新たな取り組みも積極的に行いました。これらにより、これまで第1事業に依存していた財政からの脱却を図りましたが、会費収入と事業収入は、社会経済の厳しさ、さらに口蹄疫などの影響による講座の延期や中止もあり、正会員数、活動会員数、賛助会員口数、参加者数、受講者数が伸びず、予算を下回る結果となりました。そのような中、「子どもへの暴力防止のための基礎講座」については、確実に専門職の方々の受講が増え、さらに「CAPスペシャリスト養成講座・実践編」には、実践者になりたい、という思いを持って参加される受講者による熱気あふれる講座となり、広報の時期を早めることや工夫などによって、受講者数が確保できる手ごたえを感じています。

その他の収入である寄付金収入も予算を下回りました。ご支援やご寄付をいただいた方々、グループの皆さんには心から感謝いたします。ありがとうございました。そのような中、井植文化賞を受賞できたことは、これまでの活動が社会に評価され、さらに今後への期待も含まれているものと励まされる思いでした。



支出については、受講定員を減らした小規模での講座の開催によって会場費などの講座運営費を抑え、外注していた発行物の印刷をすべて事務所内で行いました。さらに紙媒体での通信を減らすようメールマガジンとホームページの活用によって印刷費などの経費を抑えるよう努めました。

2010年度は、新たに選任されたベーシックトレーナーが準備のために研修や講座への同行をおこなったことによって、旅費交通費が非常に多くなっています。しかし、2011年度以降の土台を作る上では致し方ない出費であるだけでなく、今後の各プログラムにおける引継ぎのモデルをつくるためには必要な経費と考えています。

(今後に向けて) ・2010年度はプレトレーナーが新たに選任され、2011年度から講座を開始します。経費削減の意識を常に持ちながら、事業の参加者数増にむけて広報を早め、ホームページでの広報の工夫や地域のグループの皆さんとの広報面での協働をはかりながら、取り組んでいきたいと思えます。



・事業および講座内容を充実させ、かつ活動へのご支援をいただけるような組織運営

を行っていくことで、持続可能な活動にむけて財政の立て直しをさらに図ってまいります。そのため、社会に向けての情報の発信や他団体、関連機関との連携に積極的に努めていきたいと考えます。

(2) 「組織の課題の改善に取り組む」について

- 速やかな決議と執行、さらに経費削減のために組織のスリム化を図る -

①組織の整理が進みました。

部署や機関の役割が明確になり、意思決定のプロセスが明確になったことで、決議をある程度スムーズにすることができました。また、年間の組織における審議や協議等の開催計画や報告を部署間で共有できたことによって（情報共有の工夫）、準備等もスムーズになりました（システムの整備）。そのことによって、事務局とその他の部署がつながって運営を進めていく体制が整ってきました。事務局は様々な意味で「ジョイントすることが仕事」という意識を持つことができました。

ここ数年の変化のなかで、NPO 法人と RTC という組織の在り方が整理でき、それによって報告の仕方も整理が進み、発信対象の整理（①NPO 法人正会員；CAP の支援・理解あるいは普及・推進していく団体や人、②CAP 活動をする RTC 登録グループ；CAP プログラム実践を行う MOU を交わしたグループ）、情報発信の仕方（内容やタイミングを含む）を工夫することができました。

②理事会・各委員会・事務局で現状や今後についての情報を共有することができるような体制が整備されました。

組織の整理が進むことにより、それぞれの部署の役割が明確になり、トレーニングを含めた全体としての指針が立てられるようになってきました。

理事会での一コマ



③RTC としての基盤作りが進みました。

RTC と CAP プログラム実践活動を行う CAP グループが交わす覚書（2010 年度までの「Memorandum of Understanding」の和訳「合意文書」を 2011 年度からは「覚書」と改めました）や CAP スペシャリスト登録制度、資格更新制度などが始動し、RTC としてのしくみ、養成のしくみ（トレーナーを含む）が整ってきました。

RTC として CAP 活動を活性化するための事業展開のため、地域で活動する CAP グループ、さらに助成団体などの外部との協働を積極的に行ないました。

④地域会議

当事者性をもった取り組みをということで、地域会議は地域発で 2009 年度から行いました。地域会議が発案された頃は、地域の声が NPO 法人の運営に反映されにくいということから、事務局等が出向き、開催される地域会議での声を運営に反映させるためにスタートしました。しかし、地域グループ間のフレームの違い等のため地域発で開催することの難しさが明らかになりました。また発案当時は NPO 法人＝RTC と考えていましたが、組織の整理が進むなか、RTC は RTC 契約に基づいて運営される管理部門として整理されました。カリキュラム検討等の流れからも地域ではプログラムに関連する意見や提案という地域での取り組みの中での声を活かすために地域会議を活用することが必要と思

われます。

- (今後にむけて) ・ RTC 登録グループと NPO 法人正会員との一体感をどのようにして持つか
 が今後の課題であると考えます。正会員を増やしていくためにも、RTC と NPO 法人
 の役割をより明確にして、それぞれの機能を活性化させ、社会発信できるように
 努めます。
- ・ 今後、NPO法人やRTCの取り組みに関する説明、あるいは報告の発信の時期や方法
 を含め、工夫し情報共有に努めます。



II. 運営体制について

※太字・斜字は第8回定時総会「議案提出にあたって資料<運営方針>」の項目です。

1. トレーニングセンターとしての機能を効率的・効果的に発揮できる組織づくり

(1) トレーニング委員会

2009年度から設置されたトレーニング委員会では、その中に (1) CAPスペシャリスト養成講座部門 (養成講座部門)、(2) 技術的支援部門 (TA部門)、(3) カリキュラム検討部門 (CRC部門) を設置しました。トレーニング委員会には (1) 養成講座部門と (2) TA部門に所属する委員が出席し、それぞれが関わるプログラム、講座内容、研修企画やチーム運営、資格更新制度など広範囲にわたって話し合いを行ないました。カリキュラム間の連携や連続性のため、部門間の情報共有、情報交換に努め、同じ基盤に立って講座運営ができることをめざしました。

- (今後にむけて) ・ 今後、カリキュラム間の連携を図ることや技術的支援の内容、提供方法などについて話し合い、RTC全体で共通認識をもって活動していくことができるような体制づくりを進めていかなければならないと考えます。



(2) ICAPとの連絡

ICAPとのやりとりが増え、スピーディな対応が必要になったことから、既設のICAP連絡委員会に事務局員が入る形で、事務局にICAPとの連絡窓口を設置して2年が経ちました。ICAP連絡委員会の担当理事は時差のある中で昼夜を問わず素早く対応され、ICAPとの交信をタイミングよく、スムーズに行なうことができました。また、簡単な英文については事務局内で処理することができるようになりました。就学前プログラム実践者養成有資格者養成講座 (プレTOST) の準備や現在進めている「Strategies for Free Children」(『「ノー」をいえる子どもに』が2008年に改訂されたため、J-CAPTAとの協働事業として新たに翻訳・監修・発行を行います。)の翻訳、さらに未曾有の出来事となった東日本大震災などで交信も多く、ICAPだけでなく、世界のCAPとの繋がりを実感した年でもありました。

翻訳作業は確実に増え、和訳だけでなく、たくさんの英訳も必要となりました。ご協力いただく方々がいるからこそと感謝しております。いくつかの工程を経るため、1つの文書が出来上がるには時間がかかり、昨年同様、この部分に関する仕事量は確実に増えています。

- (今後にむけて) ・ ICAPと連携を図り、常にコミュニケーションをとっていくために今後も「英語」は必要であり、翻訳量も多いことから、協力していただける人材の確保は大きな課題です。



2. 理事会および事務局の権限や業務の一極集中を少なくするとともに、役割を明確にしたわかりやすい組織づくり

(1) 運営委員会

昨年同様、年6回開催し、1回の審議事項は非常に多岐に亘り分量も多くなり、毎回7時間におよぶ会議となりました。委員は地域でCAP活動を行い、またCAP活動以外でも多忙ななか、日程調整に協力し、精力的に協議を行いました。事務局や各委員会が提出する案に新たな視点で見ることが加わることで、広がりや深まりが生まれ、理事会に提出する議案作成の機能を果たしました。運営委員となった常任理事は理事会において、運営委員会案の説明役も務め、スムーズな議事進行の中心的な役割を果たしました。



事務所での運営委員会を開催

(2) 事務局

助成金をいただいている企業、財団には随時活動報告や訪問を行い、CAP活動の紹介や啓発に努めました。その他、これまでつながりのなかった子ども支援を行っている企業などへの積極的な訪問や情報提供を行い、CAP活動の紹介や活動へのご支援をお願いしてきました。そのような中、2010年度には、シンポジウムを共同開催するなど新たなご支援をいただくことのできた年でもありました。

(今後に向けて) ・RTCの事務局とNPO法人としての事務局の2つの役割の意識化を図り、何と何をジョイントして、そこに携わる人に力を発揮してもらうためのどんな働きかけをするのかというエンパワメント・アプローチを考えることを習慣化することが課題です。



3. センターとグループ相互のエンパワメントと協働を進めるための組織づくり

(1) 地域会議への参加

今年度はすでに集まりの枠組みを持っており、その枠組みを地域会議として活用することを決めた地域1ヶ所のお声かけで事務局が参加しました。この地域での取り組みは次年度も続けられます。また、まずは県内のネットワークをつくるという地域についても昨年に引き続き支援を行い、ネットワーク作りが1歩前進しました。組織の整理が進むなかで、地域会議はRTCとしての取り組みとして進めることが必要であると感じています。そのため、グループ間、あるいはCAPスペシャリスト間の情報格差について同じ情報基盤を持つ必要を痛感しているところです。

(今後に向けて) ・地域会議はその名称にこだわることなく、すでにある地域の枠組をRTCとして必要な事項について話し合ったり、意見交換したりする場「地域会議」として活用することができると思います。地域の主体的な取り組みが形づくられるよう、CAPセンター・JAPANが地域での枠組み作りやコミュニケーションの促進にむけてどのような発信や働きかけ、支援を行っていくかが課題です。



・近年の組織の動きをまとめて、いつでも見られるようにHPのRTC情報に掲載するなどの工夫も考えられるところです。

4. 持続可能な活動をめざした組織づくり

(1) TOST修了者の研修などを継続実施

3月にRTCリーダーズ研修とあわせてTOST修了者（ベーシックおよびプレ）の研修の実施を予定していましたが、東日本大震災の影響を鑑み、2010年度中の研修の実施を延期しました。しかし、CAPグループのリーダーや今後のRTCの担い手となるTOST修了者（ベーシックおよびプレ）が手を携え、共通基盤をもって進むことが今後にむけての重要な鍵になると考えており、時期を見て開催することを考えています。

(2) 「トレーナーの選考と評価に関する委員会」を設置

2010年度は、プレトレーナー応募者への面接2回を含み、会議としては5回の開催となりました。各分野の専門家の方による委員会は、皆さんご多忙のなか、日程調整を含め熱心に取り組んでいただきました。最終となる第5回委員会では、今後の評価についてご審議をいただき、理事会に報告されました。本委員会によりプレトレーナー候補者の選考が行われ、3名が選任されました。また評価についての指針も示され、今後のRTCの基盤づくりにむけ、たいへん大きな成果を生み出しました。

(3) 2009年度・2010年度の2ヵ年をかけて、財政を立て直し、RTCとして責務であるトレーニングに関する経費を確保し、様々な取り組みが円滑に滞りなく行なうことのできる組織をめざします。

2010年度は単年度では赤字となりました。財政の立て直しにむけてはさらなる取り組みが必要です。しかしながら、資格更新のための必須研修も本格的にスタートし、今後トレーニングに関してはベーシック・プレともにさらに経費の確保が必要です。また、中学生暴力防止プログラムについてもトレーニング実施にむけて準備が必要なことから、会員増や寄付金のお願い、事業収入増にむけての努力をしていきます。

(今後にむけて) ・トレーニングのための財源基盤の安定を図るには持続可能な財源確保が必須です。



事業においては新たな取り組みを広報や協働によって推進し、事業収入増に努めます。会員増にむけて、積極的に広報を行なっていきます。

(4) 組織の継続のために、財政の立て直しをはかるための取り組みや会員との情報共有がはかれるようなシステムや体制の構築に努めます。

情報共有として、会員にむけての各委員会の議事要旨・記録の発信、定時および号外によるメールマガジンの発信（正会員対象；CAPセンター・JAPAN通信）を行ないました。

(今後にむけて) ・グループに所属するお一人おひとりへの情報提供という課題をクリアするには、グループ（団体）の代表・事務局などの皆さんの協力が欠かせません。財政面でのご



支援をいただくだけでなく、子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会の構築にむけての関心を高め、参画を呼びかけ、繋がりを強めていくための方策が急務であると考えます。

Ⅲ. 団体の運営に関する事項

1. 2010 年度の各機関・部署・委員会実施報告一覧

部門	委員会	実施日時／実施場所
第 1 事業	トレーニング委員会	第 1 回 5 月 30 日 西宮市市民交流センター 第 2 回 8 月 16 日 刈谷市総合文化センター 第 3 回 9 月 16 日 刈谷市総合文化センター 第 4 回 10 月 16 日 西宮市市民交流センター 第 5 回 12 月 13 日 西宮市市民交流センター
管理	トレーナーの選考と評価に関する委員会	第 1 回 10 月 4 日 西宮市市民交流センター 第 2 回 10 月 21 日 西宮市市民交流センター プレトレーナー面接 12 月 13 日 西宮市市民交流センター 第 3 回・プレトレーナー面接・候補者選考 2011 年 1 月 7 日 西宮市市民交流センター 第 4 回 2011 年 3 月 16 日 西宮市市民交流センター 第 5 回 2011 年 4 月 5 日 西宮市市民交流センター 2011 年 4 月 9 日 評価に対する報告と今後への提案
管理	理事会	第 1 回 5 月 29 日 西宮市市民交流センター 第 2 回 7 月 11 日 西宮市市民交流センター 第 3 回 11 月 19 日 西宮市市民交流センター 第 4 回 2011 年 2 月 19 日 西宮市男女共同参画センター 第 5 回 2011 年 4 月 9 日 西宮市市民交流センター
管理	定款・細則を考える委員会	第 1 回 11 月 2 日 CCJ 事務所 第 2 回 11 月 16 日 CCJ 事務所 第 3 回 2011 年 1 月 31 日 CCJ 事務所 2011 年 2 月 19 日 答申の提出
管理	運営委員会	第 1 回 6 月 24 日 CCJ 事務所 第 2 回 8 月 26 日 CCJ 事務所 第 3 回 11 月 1 日 CCJ 事務所 第 4 回 12 月 21 日 CCJ 事務所 第 5 回 2011 年 1 月 31 日 CCJ 事務所 第 6 回 2011 年 3 月 9 日 CCJ 事務所

2. それぞれに関する総括

(1) 総会の開催

定時総会：2010年 5月30日（土） 西宮市市民交流センター

当日は、複数の議長立候補者に対し、その場で選出を行ないましたが、会員の方のご協力で活発な審議のなか、すべての議案が承認されました。

(2) 理事会の開催

年度当初に理事会開催の年間計画を立て、5回開催し、毎回6～7時間という審議となりました。組織体制や運営、財務状況について運営委員会や事務局からの報告・提案を受け、審議を行ないました。

(3) 運営委員会の開催

構成員の理事を2人に増やし（常任理事2人）、ほぼ2ヶ月に一度、年6回の開催となりました。財務状況のチェックを行い、理事会への議案の提出を行いました。J-CAPTAとの協力会合への対応等も行い、多様な課題について協議・検討を行ないました。

(4) 定款・細則を考える委員会の開催

総会における緊急動議などの定款の変更や細則の作成について協議を行ないました。理事会各回で概

要報告を行いながら、その都度出された意見等を参考にし、第4回理事会にて答申を提出しました。

(5) トレーナーの選考と評価に関する委員会の開催

プレトレーナー選考では、書類審査に加え、個人面接・グループ面接を行い、候補者を選考しました。また、トレーナーの評価についても議論を行い、理事会に提案を行ないました。ベーシックトレーナー、スペシャルニーズプログラムトレーナーの評価として個人の振り返りレポート、さらにはそれぞれのチームの振り返りレポートの提出を求め、それに対するフィードバックを行いました。

(6) トレーニング委員会の開催

2010年度の事業企画、資格更新制度などについての話し合いを行いました。

(7) 事務局

- ・月1回の事務局会議を持ち、現状把握、情報共有、事業執行に関する事項を話し合いました。
- ・エリア内のみならず、エリア外からのメールや電話・FAXによる問合せに対応を行ないました。
- ・日本全国を対象とする助成金（フィリップモリスジャパン（株）/積水マッチングプログラムの会）の窓口として申請からとりまとめ、配分、報告を行ないました。全国を対象とする助成金の報告はJ-CAPTAと情報共有を行なっています。
- ・運営委員会に事業執行・日常業務の報告や提案を行ないました。
- ・各機関・部署の実務担当者として案内や資料等の文書の作成・発信・とりまとめを行ないました。
- ・CAPグループとの覚書（MOU）やCAPスペシャリスト登録制度（資格一元化）等の事務手続きを行ないました。データベースの構築のためにIT関係の他団体からの支援をうけ、年度途中からは新たなスタッフを迎え、さらなる充実を図っています。
- ・経費削減に努めました。その一環としてのメール便活用では、不達による再発送などが起きたことから、チェック体制を強化し、発信前に正会員やRTC登録グループにお知らせするなど、課題解決にむけての対応を行ないました。
- ・事務局長1名、事務局次長2名によるマネジメント体制をとり、マネジメント体制の構築を図りました。

(今後に向けて) ・事務局員のマンパワー不足は、それぞれの事務局員の仕事量、役割の重複を生んで厳しい労働環境の中、負担が大きくなっています。人材の確保とともに、労働環境の改善に取り組む必要があります。



- ・窓口として電話・メール等への対応という日常業務を行いながら、事業執行していくには、協力してくださるグループ、CAPスペシャリストの存在は大きく、今後さらに協働を強化していけるよう、信頼関係の構築を行なっていきます。

IV. 2010年度事業について

※太字・斜字は第8回定時総会「議案提出にあたって資料<運営方針>」の項目です。

(1) 財政を好転させるため、これまでの事業の見直しや新たな手法での事業展開を行なう。

- ・一般を対象とする講演会など子どもへの暴力防止活動についての社会の関心を高めるための啓発講演

会を3回行ないました。今後、参加者増にむけて、広報や他団体、個人とのネットワークの強化が課題としてあるものの、年間テーマ「性暴力防止」を掲げての内容は参加者には好評で、今後の取り組みの励みとなりました。

- ・研修会場での書籍販売などについては、広報グッズの作成により上向き傾向にあります。グループの活動資金の調達にも活用できるグッズ頒布には今後も力を入れていきたいと考えています。

(今後にむけて) ・ホームページを通じての広報の工夫や継続して学習会や講演会を行なうことによって良質なサービスを提供するNPO団体として、社会に認知されるように努めることが必要であると考えています。



- ・今後CAPスペシャリスト以外の支援者・理解者にむけて、これまでの発行物の再編を含む新たな発行物の作成が啓発の側面からも必要であると考えます。
- ・発行物についての分かりやすい内容紹介やグループへの活用方法の紹介など、より多くの方に手に取ってもらえるような工夫や取り組みを行なっていきます。

(2) RTCとしての責務を果たすためのトレーニングや技術的支援を行う。

- ・技術的支援（以下、TA）のための研修として、トークタイム研修・障がいのある子どもへのCAP・CAP児童養護施設プログラム研修等を実施しました。どの研修も基盤となるフレームを押さえた上で実施しました。
- ・2010年度から資格更新のための必須研修であるトークタイム研修が始まり、集合研修・出張研修の2つの形態で行ないました。午前中は理論的な基盤の振り返り、午後からは小グループにわかれての実習とフィードバックという構成で研修を行ないました。今後、さらにテーマを特化して極め細やかな必須研修をめざします。

(今後にむけて) ・RTCとしてはCAPスペシャリストが活動する地域に近い場所で開催することで参加機会を増やし、必要な研修を行なっていける財源基盤をつくっていくことが必要です。参加機会を増やすことを目的として活動会員は5,250円（税込み）で研修に参加できるようにするなどの取り組みは財政の圧迫に繋がっています。しかし、この参加費を堅持できるよう、そのためにできること、取り組みについて検討をしていきます。



- ・出前講座の内容は、地域のニーズにあった利便性の高い講座として、利用が広がってきており、さらに講座内容の拡充をめざします。
- ・資格更新などを見据えて出前講座などTAの利便性を高め、利用増を図るため、講座開催依頼に対応できる講師を増やし、TAとして同じ基盤を持って立てる体制作りが急務です。

V. 特定非営利活動に関する事項

1. 2010 年度主な事業一覧

事業	事業内容	実施日時	実施場所	参加人数	
第 1	CAP スペシャリスト養成講座（実践編）in かりや	9 月 17 日・18 日・19 日	愛知県刈谷市	84 人	
第 1	CAP スペシャリスト養成講座（実践編）in にしのみや	11 月 5 日・6 日・7 日	兵庫県西宮市		
第 1	CAP スペシャリスト養成講座（実践編）in くるめ	2011 年 1 月 8 日・9 日・10 日	福岡県久留米市		
第 1	CAP スペシャリスト養成講座（実践編）in くまもと	2011 年 2 月 12 日・13 日・14 日	熊本県熊本市		
第 1	CAP スペシャリスト養成講座（実践編）in とうきょう	2011 年 3 月 11 日・12 日・13 日	東京都北区		
第 1	スペシャルニーズプログラム養成講座	8 月 28 日・29 日	広島県広島市		58 人
第 1	就学前プログラム実践者養成有資格者養成講座（プレ TOST）	10 月 14 日・15 日・16 日	兵庫県西宮市		
第 1	CAP スペシャリスト研修 トークタイム研修	9 月 4 日	埼玉県さいたま市	172 人	
第 1	CAP スペシャリスト研修 CAP 児童養護施設プログラム研修	9 月 5 日	埼玉県さいたま市		
第 1	CAP スペシャリスト研修 ICAP 特別研修	10 月 17 日	兵庫県西宮市		
第 1	CAP スペシャリスト研修 トークタイム研修	11 月 14 日	徳島県徳島市		
第 1	CAP スペシャリスト研修 境界線研修 子どもの視点に立つ	2011 年 2 月 26 日	東京都豊島区		
第 1	CAP スペシャリスト研修 障がいのある子どもへの CAP 研修	2011 年 2 月 27 日	東京都豊島区		
第 1	出張研修 トークタイム	2011 年 3 月 6 日	愛知県豊橋市		
第 1	TA/出前講座 教職員ワークショップ	4 月 14 日	岡山県		128 人
第 1	TA/出前講座 教職員ワークショップ	7 月 19 日	兵庫県		
第 1	TA/出前講座 障がいのある子どもへの CAP	7 月 29 日 8 月 17 日・25 日	埼玉県		
第 1	TA/出前講座 教職員ワークショップ	9 月 12 日	島根県		
第 1	TA/出前講座 教職員ワークショップ	9 月 23 日	大阪府		
第 1	TA/出前講座 SNP プログラムフォローアップ	2011 年 3 月 22 日	沖縄県		
第 1	TA/出前講座 境界線研修	2011 年 3 月 23 日	沖縄県		
第 2	子どもへの暴力防止のための基礎講座 in みやざき	7 月 30 日・31 日・8 月 1 日	宮崎県宮崎市	133 人	
第 2	子どもへの暴力防止のための基礎講座 in かりや	8 月 17 日・18 日・19 日	愛知県刈谷市		
第 2	子どもへの暴力防止のための基礎講座 in にしのみや	10 月 10 日・11 日・12 日	兵庫県西宮市		
第 2	子どもへの暴力防止のための基礎講座 in くまもと	10 月 22 日・23 日・24 日	熊本県熊本市		
第 2	子どもへの暴力防止のための基礎講座 in くるめ	12 月 10 日・11 日・12 日	福岡県福岡市		
第 2	子どもへの暴力防止のための基礎講座 in とうきょう	2011 年 2 月 4 日・5 日・6 日	東京都北区		
第 2	子どもへの暴力防止のための研修会 学校危機と心のケア 講師：野坂祐子さん	4 月 18 日 2011 年 2 月 12 日	東京都大田区 山口県山口市		

第 2	子どもへの暴力防止のための研修会 性的虐待の現状とその予防 講師：岡本正子さん	5 月 30 日	兵庫県西宮市	251 人
第 2	児童虐待防止シンポジウム 【基調講演】 講師：才村 純さん 【シンポジウム】 シンポジスト：玉井 邦夫さん シンポジスト：渡井 さゆりさん シンポジスト：加藤 治子さん コーディネーター：側垣 一也	2011 年 1 月 30 日	大阪府豊中市	
第 2	公開おとなワークショップ	2011 年 3 月 22 日	沖縄県那覇市	
第 3	出前講座 GETS/グループ運営	4 月 27 日	大阪府	2,715 人
第 3	出前講座 GETS/グループ運営	2011 年 1 月 29 日	佐賀県	
第 3	地域会議* 四国 CAP スペシャリストの集いの一環として	11 月 12 日	徳島県徳島市	
第 3	「子どもが安心して自信を持って自由に生きる」ま ちづくりキャンペーン	10 月～2011 年 2 月	全国 7 か所	
第 3	CAP 児童養護施設プログラム普及事業	6 月～2011 年 3 月	全国 48 施設	
第 6	施設職員研修 (6 回講座)	6 月～2011 年 1 月	兵庫県西宮市	109 人
第 6	認定 NPO 法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワー クとの協働	8 月	神奈川県 宮崎県	
第 6	西宮市市民交流センター共催公開講座	9 月 10 日	兵庫県西宮市	

* 技術的支援 (TA : テクニカルアシスタンス) : CAP スペシャリスト育成に関わる CAP スペシャリスト研修、出前講座など。

2. 各事業の総括

(1) 第 1 事業 CAPプログラムを提供する人材育成事業

1. 人材養成事業

CAP スペシャリスト養成講座・実践編 かりや 9/17・18・19 にしのみや 11/5・6・7 くるめ '11 1/8・9・10 くまもと '11 2/12・13・14 とうきょう '11 3/11・12・13	
目的	CAP プログラム実践活動を行う CAP スペシャリストの養成。専門性を高め、質の高い活動の継続を図る。
内容	CAP プログラム実践者である CAP スペシャリストとしておとなワークショップ、子どもワークショップについて深く学び、実習を行なう。特にグループに入ってから行なうフィードバックを多く取り入れ、実践にむけての姿勢を揺るがないものにするをめざす。
対象	子どもへの暴力防止に関心のある市民
成果と 今後に向けて	小グループでの実習や互いに語り合うことによって、自然とつながり生まれ、学びあいが行われていった。グループに入ってから活動をイメージしながら修了することで昨年度受講者からすでに 19 人が活動登録を行っていることは大きな成果と考える。今後さらにきめ細やかなトレーニングをめざしていきたい。



スペシャルニーズプログラム（SNP）養成講座	
目的	各地でスペシャルニーズプログラムを普及することをめざし、実践者を増やす。 ※スペシャルニーズプログラム： 1986年にアメリカ（NCAP/現 ICAP）で開発された知的障がいのある子どもを対象とした CAP プログラム。先生が実施する 2 日間と CAP スペシャリストが実施する 3 日間で構成されており、特別支援学校（小学部～高等部）や小中学校の特別支援学級など、知的障がいのある子どものクラスや学習グループで実施。
内容	障がいに関する基礎的な知識からプログラム実践のポイントなど。実習を交えながら行なう講座によって現場での実践力を育む。広島；8/28・29
対象	CAP スペシャリスト
成果と 今後に向けて	<p>今年度から就学前プログラムの受講を SNP 受講の要件からはずした。それによって、身近で開催されるこの機会に受講をという方が多かった。また、これまでの資料をまとめるなどして、テキストを新規作成し、今年度から使用した。</p> <p>受講者には知的障がいのある子どもと出会ったことがない方も多く、知的障がいについて知ることから始める必要があると感じた。今後、普及にむけての広報や取り組み方についても講座内容で触れることが受講者のニーズとして顕在化している。また、受講後のフォローアップをどのように行なっていくのかに関する取り組みは急務であると考え。普及においてのサポート体制を整えるためには財源も大きな課題である。</p>



子どもワークショップ模擬の一場面

就学前プログラム実践者養成有資格者養成講座（プレTOST）	
目的	CAP 就学前プログラムのトレーナー（ベーシックトレーナー）有資格者の養成
内容	ICAP モデルによる幼児期カリキュラム（就学前＋幼稚園）のトレーニング法を学ぶ。西宮；10/14・15・16
対象	実績およびグループからの推薦などの要件を満たした CAP スペシャリスト
成果と 今後に向けて	<p>ICAP モデルによるトレーニングを学び、おとなワークショップに関する新たな戦略も持つことができた。また、今後の CAP センター・JAPAN のトレーニングを担い、検討していく熱意をもった人材が集まったことの意義は大きかった。継続研修を含め、この学びをどのように活かしていくかが課題。</p> <p>RTC として各カリキュラムのトレーナーを置くことは今後のエリア内の活動の広がりや活動の質の維持・向上の面からも必定である。財務状況の厳しい中での開催は受講者の負担が大きく、財源の確保が大きな課題となった。</p>

2. 研修学習事業 (CAP スペシャリスト対象)

CAP スペシャリスト研修	
目的	CAP スペシャリストのスキルアップ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・トークタイム研修 (資格更新研修) 「いじめにどう対応するか」 埼玉 ; 9/4 ・CAP 児童養護施設プログラム研修 「施設職員ワークショップを組み立てる」 埼玉 ; 9/5 ・トークタイム研修 (資格更新研修) 「いじめにどう対応するか」 徳島 ; 11/14 ・境界線研修 「子どもの視点に立つ」 東京 ; '11. 2/26 ・障がいのある子どもへの CAP 研修 東京 ; '11. 2/27
対象	CAP スペシャリスト
成果と 今後に向けて	<p>資格更新のための必須研修トークタイムが始まった。前半は理論の復習、後半は実習とより効果的な先生との振り返りについて学ぶ構成で行った。まだ始まったばかりであるが、フィードバックにも重点を置いており、活動における課題も浮き彫りになってきている。今後活かしていきたい。</p> <p>「施設職員ワークショップを組み立てる」では継続実施という視点でプログラムづくりを行った。児童養護施設でのプログラム提供の経験のあるCAP スペシャリストでも施設について実は良く知らないというような実態も浮かび上がり、今後この点についてどのように対応していくのが課題。</p> <p>「境界線研修」は今年度新たに取り組んだもの。CAP プログラムは境界線の視点からも裏づけのあるプログラムとして実践していくことの必要性を押さえる講座で、シュミレーションを重ねて講座を開催した。参加者からのフィードバックを受けながら、さらに充実した講座として成長させていきたい。</p> <p>「障がいのある子どもへのCAP 研修」では、午前中にキャラバン隊による公演で知的障がい体験や知的障がいのある子どもの保護者、関わる人たちとの座談会。後半は実践報告会とその報告を踏まえての研修。知的障がいのある子どもたちがどう感じているかの模擬体験は、ワークショップでも必要な知的障がいのある子どもへの理解に欠かせない時間であった。また、保護者の方との話のなかで「障がいの専門家になる必要はありません。一般的な知識でいいから、皆さんはCAP を届けてくださればいいです」という言葉には励まされた。他団体との交流を強化し、このプログラムの普及に力を注ぎたい。</p>
	 

ICAP トレーナーによるCAP スペシャリスト研修	
目的	プログラム提供の技術的支援
内容	ICAPがアメリカで行っているトークタイム研修（日本以外ではレビュータイムと呼ばれる）を2人のICAPトレーナーを招いて実施。西宮；10/17
対象	CAP スペシャリスト
成果と 今後に向けて	法律やシステムの違いがあっても、揺るがない姿勢の2人のトレーナーはCAP スペシャリストにとって良きモデルとなった。ICAPが行っているトレーニングを知ること、今後のCAP スペシャリストのトレーニングで活かせる方法を得た。

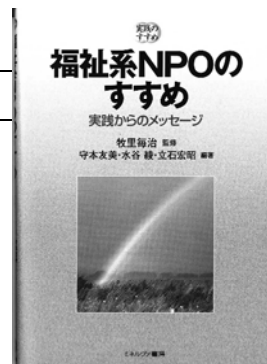
TA/出張研修	
目的	資格更新のための必須研修
内容	トークタイム研修 愛知； '11. 3/6
対象	CAP スペシャリスト
成果と 今後に向けて	資格更新のための必須研修として、愛知県内グループのCAP スペシャリストを対象に実施した。2011年度からの資格更新研修も、CAPグループの状況（日程や実習部分のニーズ）にあわせて出張研修のかたちで実施していく。

TA/出前講座	
目的	参加者の利便性を高めてCAPプログラム提供の技術的支援を実施する。
内容	教職員ワークショップ 岡山；4/14、兵庫；7/19、島根；9/12、大阪；9/23 障がいのある子どもへのCAP 埼玉；7/29、8/17・25、沖縄； '11. 3/22 境界線研修 沖縄； '11. 3/23
対象	CAP スペシャリスト
成果と 今後に向けて	グループのニーズに合わせた内容なのでリピート依頼するグループが現れており、今後メニューの充実、テーマの多様さを打ち出すことでより広がる可能性を感じている。講師となる人材の確保と同じ内容の提供の担保が必要で、講師の研修や情報共有の機会をつくることなどが昨年同様大きな課題である。

児童虐待防止シンポジウム “子どもたちと明日をつくろう！” (第2・6事業)	
目的	子ども虐待防止の「発見」と「支援」、そして「回復」と「予防」のために必要なことを学ぶ。
内容	<p>【基調講演】 大阪府；‘11. 1/30 「児童虐待防止法施行から10年・子ども虐待における介入と家族再統合の課題」 講師：才村 純さん（関西学院大学人間福祉学部教授）</p> <p>【シンポジウム】 「子ども虐待に関する教育と福祉の協働」 ～子ども虐待に関する学校の現状と課題～ シンポジスト：玉井 邦夫さん（大正大学人間学部教授） 「日向ぼっこの活動を通じて考える子どもの視点に立った社会的養護」 シンポジスト：渡井 さゆりさん （NPO 法人社会的養護の当事者参加推進団体日向ぼっこ理事長） 「“性暴力救援センター・大阪”を訪れる被虐待児」 ～産婦人科医から見た性的虐待を受けた子どもの現状と課題～ シンポジスト：加藤 治子さん（阪南中央病院産婦人科医） コーディネーター：側垣 一也（NPO 法人 CAP センター・JAPAN 理事長）</p>
対象	子どもの援助職についておられる方・市民・CAPスペシャリスト
成果と 今後に向けて	<p>事前申込を不要としたため、参加人数を心配したが、定員を超える参加者とこれまでにない参加者層（大学生・大学院生）の来場に嬉しい悲鳴であった。内容は短時間でやや詰め込みすぎの感は否めず、お一人お一人のパネリストに講座をお願いするなど今後へのステップとなった。広報は、直前まで新聞などに働きかけ、社会的養護や医療関係、大学の福祉関係学部などに案内を送るなどを積極的に行い、今後のつながりも生み出すものとなった。財政面から単独での開催は難しかったが、こども未来財団との共同開催はこれからへの弾みとなった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>パネル展示</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>パネリストの皆さん</p> </div> </div>

CAPおとなワークショップ	
目的	CAPおとなワークショップをグループメンバーと協働で実施する。
内容	CAP おとなワークショップ 沖縄；‘11. 3/22
対象	子どもへの暴力防止に関心のある市民・CAPスペシャリスト
成果と 今後に向けて	<p>幼い子どもに関わる方を対象に、「子どもがなぜ被害に遭いやすいのか」「子どもの脆弱性」「障がいのある子どもがなぜ被害にあいやすいのか」といった理論を重点的におさえるおとなワークショップを実施した。</p> <p>参加者から「ぜひ地域でもワークショップを実施したい」との感想を複数いただくなどして、グループのワークショップの実施のありかたの再点検にもなったようである。</p>

執筆	
目的	CAP活動の実践について広く紹介する。
内容	『福祉系 NPO のすすめ』（ミネルヴァ書房） 実践編第4章子どもへの暴力のない社会をめざして を執筆
対象	書籍購読者
成果と 今後に向けて	当団体の設立経緯から活動の内容にわたるまで14ページにわたって執筆した。本の帯には「地域福祉を支える住民による主体的活動 個人発の「想い」をかたちにするために支えあいをめざし組織化された実践の姿を紹介する」とあり、多くの方々にCAP活動を知っていただける機会をつくることができた。



(3) 第3事業 CAPに関する情報提供および相談事業

電話、FAXおよびメールによる相談および対応の実施	
内容	CAPプログラムの提供の仕方、CAP活動についての問合せ、CAPグループの紹介、養成講座の問合せ、グループ運営の相談、取材対応など ※電話件数 年間 528件 (月平均 44件) ※メール受信件数 年間 6,233件 (月平均 519件)
対象	子どもへの暴力防止に関心のある市民・関係機関・CAPスペシャリスト
成果と 今後に向けて	昨年度から事務所開設時間が短くなり(月～金11時～16時)電話件数は減少しているが件数は昨年並み。一方、年間のメール受信件数は昨年度よりは減ったものの6,233件と一昨年の約5倍となっている。IT環境の普及もあって昼夜問わず生活時間に合わせて問い合わせのできるその利便性により、活用が増していると考えられる。日常業務でのメール対応に時間を掛けることになったが、双方向の継続的なコミュニケーションをとることができた。 FAX、メールで対応しきれないケースは、電話で確認作業などを行った上で対応した。

情報収集と共有化	
内容	①IT (情報技術) 環境の整備 ・ホームページのリニューアル・整備・随時更新、グループの情報の発信、会員・センター間の情報共有 ②情報セキュリティの環境整備 ③メールマガジンの発行 6月以降、対象別に2種類のメールマガジンを発行した。 ・「CAPセンター・JAPAN 通信」(NPO法人正会員対象) 事務局や各部署からの報告や次月の事業などタイムリーな情報を月1回 最終金曜日に発信。 ※定時メールマガジン 1号～11号 (年11回)

	<p>※メールマガジン号外 12回 (月平均1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「CAPセンター・JAPAN RTC通信」(MOUを交わしたグループ対象) トレーニングに関連する事項やおとなワーク等で活用したい最新情報などを月1回月初めに発信(7月に第1号創刊)。 ※定時 準備号1・2・3号を経て創刊号発信 13回(創刊号～10号) ※号外 3回 <p>④事務局ブログの開設(試行・アメーバブログ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座開催時に試験的に、ブログで発信を行った。
対象	CAPグループやCAPスペシャリスト・市民・メディア・行政など
成果と 今後に向けて	<p>ホームページを使って発信する機会が増えたことでタイムリーな情報提供を行うことができた。東日本大震災後、トップページにメッセージを掲載した。今後も社会発信のツールとしてさらに活用していきたい。</p> <p>今年度から、対象別に2種類のメールマガジンを発信した。枠組みが明確になったことでそれぞれに情報を分けることができ、整理された。日常業務を紹介するため事務局ブログ発信の再開を予定していたが、試行に終わったため、今後再開して発信を行っていきたい。</p>

プログラム提供に関する相談などの技術的支援(TA)の窓口	
内容	プログラム実施についてのCAPグループやCAPスペシャリストからの相談窓口を設け、トレーニング委員会との連携により、迅速に対応を行なう。
対象	CAPグループやCAPスペシャリスト
成果と 今後に向けて	<p>グループからのプログラム実施についての相談は、電話やメールなど多数あり、それぞれ担当部門につなぐなどして対応をした。</p> <p>特にスペシャルニーズプログラムについては、障がいのある子どもへのCAPプログラムチームが対応を行い、迅速かつ丁寧な内容は好評であった。</p> <p>各部門のメンバーは、地域での活動をしながらであるため、今後緊急な対応を含め、迅速な連絡の取り方や情報の蓄積・共有が課題として考えられる。</p>

グループエンパワメント・トータルサポート(GETS)事業	
目的	グループ運営の支援を行なう。
内容	<p>① グループ運営に関する講座・研修「出前講座」のプログラム作り ファシリテーショングラフィック(大阪府;4/27) グループ運営(佐賀県; '11.1/29)</p> <p>②新グループの立ち上げのルールや支援のためのツール作成</p> <p>③グループ運営などに関するこれまでの取り組みをまとめ、グループの基盤強化(基盤作り)に必要な活動ハンドブックの作成(2010年度完成予定が、システムの構築に時間がかかったため、2012年度完成と予定変更)</p> <p>④機関紙やメールマガジンへのグループ運営や助成金に関する情報の掲載</p> <p>⑤子どもへの暴力に関する新聞記事等のデータ収集ならびにHPへのUP</p>

対象	CAPグループ
成果と 今後に向けて	<p>① 出前講座の実施でグループ運営の基礎的な内容やグループの課題についての今後の取り組み・必要な姿勢を話し合った。</p> <p>②・③ ICAPと昨年交わした「RTC契約」等により、グループの認可やCAPスペシャリスト登録などの制度やシステムの変更があり、早急にこれらの情報をまとめ、わかりやすい認可に至るルールや支援のツール、活動ハンドブックを作成することが急務。</p> <p>④ 『The☆すぺしゃりすと』にグループ運営に関する情報を掲載した。助成金情報は厳しい社会情勢の中だからこそ必要で今後どのようにして情報収集し、発信するのが課題である。</p>

地域会議	
目的	地域単位で、ワークショップを進めるなかでの疑問点や悩みなどを出し合い、RTCやカリキュラム検討部門（CRC）に対して現場の声や意見を届ける役割を担う。プログラム実施やスクリプトに関する提案なども出し合い、トレーニング委員会の中におく、CRC部門への提案を行なう。
内容	2010 年度は、各地域で開催されている既存の研修や会議などの場を活用。CCJ から事務局が参加して、RTC や CRC に対しての会員からの声を直接聞く場とした。 * 四国 CAP スペシャリストの集い（徳島県；11/13）に出席。
対象	CAPスペシャリスト
成果と 今後に向けて	既存の地域での集まりに事務局が参加できたことで資格更新制度や養成課程について説明する機会を持てた。これによって情報共有をある程度は図ることができたものとする。このような場を如何にして多くの地域で開催できるようにするか、その機運を高めることが必要であり、課題である。

グループ支援	
助成団体	積水ハウスマッチングプログラム助成の会
事業	CAPの啓発・普及を目的にした地域でのWS（地域セミナー）の開催
内容	<p>地域でのCAPの普及を目的にCAPおとなWSを開催するCAPグループを募り、全国で7か所（京都府・福島県・東京都・長野県・群馬県・福井県・大阪府）で実施。実施期間は10月～‘11.2月。</p> <p>（参加者職種等） 主婦・養護学校職員・保育士・嘱託職員・小学校保護者・助産師・医師・行政職員・市議会議員・ライオンズクラブ・養護学校教諭・学童指導員・民生主任児童委員・教育委員・青年会議所役員・地域の方々・子ども会役員・小学校保護者・教職員・会社員・保育園保護者・地域ボランティア団体員・愛育委員・幼稚園保護者・看護師・看護大学職員・登下校見守り隊・市役所職員・スポーツ少年団リーダーなど</p>
成果と 今後に向けて	子どもが安心して生きていくためには、家庭と地域と学校の三者が一体となつて、生きる力としての子どもの人権について理解し、子どもをサポートするおとなが増えることが必要であることを地域セミナーで共有でき、CAPプログラムの理解者、活動支援者を増やすことができた。CAPプログラムの学校PTAへの働きかけ

	につながった地域もあり、活動の広がりや成果があった。広報面の工夫を検討することで、まだ届いていない人や団体に CAP プログラムを知ってもらう機会を増やしていくことが課題と考えている。
--	----------------------------------------------------------------------------------------------

グループ支援	
助成団体	フィリップモリスジャパン株式会社
事業	児童養護施設におけるCAPプログラムの実践
内容	地域で児童養護施設等へのCAPプログラムの提供を行うCAPグループを募り、全国21グループが48施設で実施。実施期間は6月～‘11.3月。 15道府県；神奈川県・大阪府・京都府・福岡県・熊本県・岡山県・埼玉県・愛知県・千葉県・北海道・新潟県・長野県・山形県・宮城県・茨城県
成果と 今後に向けて	事前にグループに実施予定を募ったところ、実施希望が昨年度より増えたため、助成団体に連絡し、助成の増額をお願いをした。結果、多くの施設でプログラムを実施することができた。児童養護施設だけでなく、知的障がいのある子どもの入所施設などでも実施され、着実に地域における社会的養護の分野でCAPが社会的資源として認知されつつあると感じている。今後、報告内容を精査し、継続したプログラム実施ができるように検討を行い、機会を設けてプログラムの有用性を社会へアピールし、社会的養護へのさらなる貢献を図っていきたい。

(4) 第4事業 CAPに関する広報事業および出版事業

CAPセンター通信	
目的	センターの活動状況や方針の情報提供
内容	メールマガジンのバックナンバーと補足情報等を年2回発行。(紙媒体)
対象	正会員 (CAPグループ)
成果と 今後に向けて	NPO法人メールマガジンを併用しつつ、NPO法人としての報告等の情報提供を行った。事務局としては正会員の団体の構成員の方すべてに知っていただきたい内容であるが、なかなか現実には難しいと感じている。

The☆すぺしゃりすと	
目的	CAPスペシャリストのスキルアップ、ステップアップのための情報提供を行う。
内容	第28号 2010年8月発行 (650部) 第29号 2010年12月発行 (450部) 第30号 2011年3月発行 (450部)
対象	活動会員 (CAPスペシャリスト)
成果と 今後に向けて	各号A4判16ページで構成。2010年度は、RTCとして発行するということを意識して、CAP実践のための情報の充実を重点に紙面を構成した。

CAP NEWS	
目的	子どもへの暴力を許さない安全な社会をめざして情報を提供する。
内容	No. 18 2010年10月発行 No. 19 2011年3月発行
対象	賛助会員および市民
成果と 今後に向けて	各号A4判8ページで構成し、二色刷りにして読みやすさを工夫した。 事業の広報を兼ねて企画を立て、シンポジストに寄稿していただくなどの工夫を行った。これまでつながりのあったところだけでなく、事業でつながった医療関係や社会的養護に関わる団体など多方面に配布を行った。

『子どものエンパワメント・サポートブック』作成	
目的	子どもが安心できるコミュニティづくりのために、日常生活の中でおとなが子どもとともに復習や練習ができる環境を整える。
内容	A5 判二色刷り 32 ページ (4,500 部)
対象	CAPおとなワークショップに参加された方向けにCAPグループを通して頒布
成果と 今後に向けて	近年のおとなワークショップの参加者受講傾向に対応するツールのひとつとして作成した。 “子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会”の実現のために、子どもをサポートできるおとなを増やし続けることが必要で、この冊子を手にしたおとなが子どものサポーターになってくださることを期待する。 *キリン福祉財団助成事業



広報グッズ作成	
目的	子どもへの暴力防止について、市民へ啓発する。
内容	“子どもの生きる権利として、暴力防止を訴える” キャンペーングッズ作成 シール 10,000 枚 缶バッジ 2,000 個 (2種を各 1,000 個)、メッセージカード付 *中央共同募金会の公益信託高橋保蔵記念福祉振興基金による助成事業
対象	市民
成果と 今後に向けて	講演会、研修等で、CCJもしくはCAPグループを通じて、グッズを配布、頒布することで、より多くの方にこのテーマに関心を持って生活していただきたい。

(5) 第5事業 CAP 実践に関する調査およびプログラムの効果調査

2009年度CAPワークショップアンケート集計および『CCJ CAP REPORT』作成	
目的	2009年度CCJエリア内グループが実施したワークショップ数の集計。
内容	各グループから提出されたワークショップ実施数の集計をし、データ集として『CCJ CAP REPORT 2009』を作成する。
対象	市民およびCAPスペシャリスト
成果と 今後に向けて	CCJエリアの88グループから提出された報告を集計した（子どもWS 6,439回・189,775人/おとなWS2,280回・56,575人）。毎年、J-CAPTAとデータ交換し、日本での実施数を公開する。 『CCJ CAP REPORT 2009』はA4判12ページ。CAPグループが今後の活動計画などに役立てるため、ワークショップ実施数と活動状況について掲載する。

(6) 第6事業 連携事業

施設職員研修	
目的	障がいのある人を守るための「暴力と虐待防止」について研修する。
内容	施設職員研修（連続講座6回）
成果と 今後に向けて	施設職員の方にニーズをはかって、CAPのアプローチ、境界線研修、スペシャルニーズプログラム紹介、ケーススタディなど、職員が日頃の仕事に必要なと思われる学びを連続講座にした。

認定NPO法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワークとの協働事業	
目的	CMPN（認定NPO法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク）がChildFirst™を日本に招聘し、日本人ファカルティ（多職種、多機関から成るチーム）を養成し、国内にて多機関、多職種チーム対象の司法面接研修を展開する事業において、CAPセンター・JAPANがその養成の模擬面接演技者（子ども役）を担当する。
内容	昨年度に引き続き、第4と第5クールで模擬面接の演技者10役（女の子7役、男の子3役）を担当した。神奈川県；8/3・4 宮崎県；8/10・11
成果と 今後に向けて	CAPスペシャリストが子どもへの暴力防止教育の分野で培った知識と経験が評価されて、協働事業へとつながった。CMPNの助成金事業として期間限定であったが、将来的な広がりが期待され、関係他機関との協働の強化を含め、継続を図っていきたい。

共催公開講座（第2・6事業）	
目的	CAP活動の広報
内容	公開講座「たがいにここちよいと思える人間関係をめざして！」兵庫県；9/10 講師：障がいのある子どもへのCAPチーム 徳永桂子さん
対象	援助職や講座テーマに関心のある方
成果と	西宮市市民交流センターとの共催にて実施。

今後に向けて	サークルズの説明をベースに、互いにこちよい（＝暴力的でない）人間関係のあり方について講演を行った。参加者の職種がこれまでになく多様で、子ども分野でない方も参加も多くみられた。広くCAPを広報していくためには、このような機会を増やしていくことも検討したい。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

J-CAPTA (JAPAN CAP Training & Action) との会合および情報共有 (RTC間協力会合など)	
目的	日本における今後のCAP活動を発展的に展開するための2つのRTC間の協力のあり方を考え、双方の合意をもつ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・RTC間協力会合 北海道；9/28 会合では、CAPスペシャリストの養成や助成金対応など懸案である事項を協議し、記録として残した。 ・J-CAPTA&朝日新聞厚生文化事業団共催の子どもへの暴力防止フォーラム2010『子どものこえに耳を傾けること～「子ども被害者学」のススメ』 理事長と事務局員が参加。ポスターセッション協力。東京都；10/30・31 ・CCJが主催した児童虐待防止シンポジウム（2011年1月30日開催）にJ-CAPTAに展示で参加してもらった。 ・その他 『Strategies for Free Children』*の共同発行にむけての話し合いや東日本大震災における安否確認などメールや電話で連絡をとりあった。 *現在の『「ノー」をいえる子どもに』が2008年に改訂されたことから、新たに翻訳・監修して発行。
成果と今後に向けて	2010年度は運営委員会を中心として、日常的には事務局が窓口となり組織として対応を行った。今後も引き続き、RTCとしての責務を互いに果たしながら、組織間でどのように協働していくのか協議を重ねていきたい。

日本子どもの虐待防止学会 (JaSPCAN) 参加 (展示)	
目的	CAPプログラムの普及・啓発と日本における子ども虐待の現状把握に努める。
内容	パネル展示、CAP NEWSの配布、障がいのある子どもへのCAPのリーフレット、CAP児童養護施設プログラムリーフレット、CAP10年の歩みの販売、分科会参加 熊本県；11/28
成果と今後に向けて	他団体の展示から当団体のパネルの内容、アピールの工夫が必要であると考え。また、パネル展示だけでなく、子どもへの暴力防止を掲げて防止教育に携わる団体として積極的に関わっていくことで、社会発信と他団体とのネットワークを促進していきたい。



(7) その他

- 〈賛同団体〉 ・ 「児童ポルノがない社会を目指して」緊急アピール 財団法人日本ユニセフ協会
 ・ ハーグ「子の奪取」条約の批准に慎重な検討を求める市民と法律家の会
- 〈支援団体〉 ・ 子ども虐待防止オレンジリボン運動支援団体

ご支援いただいた個人および団体

2010 年度正会員 (95)

CAP とらいあんぐる, CAP 東埼玉, CAP くれよん, くき CAP, CAP せたがや, NPO 法人 CAP ユニット, NPO 法人 青い空
 ー子ども・人権・非暴力, PEACE CAP プロジェクト, CAP 八王子, CAP ハレノヒ, CAP 元気, CAP プラム, CAP か
 わさき, CAP たんぼぼ, NPO 法人 CAP かながわ, NPO 法人 やまとひまわり, NPO 法人 CAP 凸凹神奈川, かながわ CAP
 みらくる, つるが CAP, CAP やまなし, CAP かざぐるま, CAP きらきら, 結 (CAP 倶楽部), 志太 CAP, 名古屋 CAP, あ
 いち CAP, 人権ワークショップグループあるふあ, チャイルドサポート企画 RECO(レコ), とよはし CAP, 勇気づ
 け子育て陽だまりの会, CAP みえ, CAP 柘, CAP ひまわり座, CAP あい, 滋賀 YMCACAP 子ども人権教育センター, CAP
 滋賀, CAP レラ, NPO 法人 きょうと CAP~子どもの人権・暴力防止~, ふくちやま CAP, NPO 法人 西淀川子どもセ
 ンター, ひとつぶのたね, おおさか CAP エコール, CAP プロジェクトやお, CAP プロジェクト大阪狭山, 堺 CAP プ
 ロジェクト, NPO 法人 CAP いずみー暴力防止・人権ネット, しまもと CAP, CAP もりぐち, C サポート・こう
 べ, CAP にしのみや, むこがわ CAP, さんだ CAP, ささやま CAP, CAP ひめじ, はりま CAP リバ, ひかみ CAP, NPO 法人
 女性と子どものエンパワメント関西, NPO 法人 奈良 CAP, CAP 西大和, toddle(タドル)わかやま, CAP きのくに橋
 本, CAP きのくに・わかやま, とっとり CAP, 島根 CAP, はまだ CAP, ますだ CAP, CAP おかやま, CAP つやま, エンパ
 ワメント MOMO, ふくやま CAP スイミー, NPO 法人 CAP 広島, CAP 賀茂, CAP おのみち, CAP うべ, CAP 下関, CAP 西
 京, CAP 周南, CAP とくしま, CAP みよし, 香川 CAP, 愛媛 CAP, CAP うわじま, CAP にいはま, NPO 法人にじいろ CAP,
 こども CAP ふくおか, CAP・Group えふ, さが CAP, ほつぷ・すてつぷ・CAP くまもと, おおいた CAP, ライツオブ
 チャイルドみやざき, え〜る CAP のべおか, 鹿児島 CAP 連絡会, せんだい CAP, 子どもの人権 CAP おおすみ, NPO
 法人おきなわ CAP センター

2010 年度活動会員 (441 人)

愛甲 かおり, 青山 亜由美, 赤穂 眞由美, 芥川 裕子, 東 深幸, 足立 菊江, 足立 淳子, 足立 美子, 阿
 部 和代, 阿部 順子, 阿部 真紀, 阿部 洋子, 荒井 めぐみ, 荒金 諭, 有田 雅恵, 粟井 陽, 飯島 聡子,
 飯田 直, 飯田 佳子, 五十嵐 直子, 井口 千鶴, 池田 灯文, 池畑 博美, 伊香 悦子, 伊作 真由美, 石井
 千鶴, 石谷 泰枝, 石川 正美, 石田 幸代, 石飛 勝, 石山 有子, 泉 直美, 和泉 富美子, 伊勢 郁美, 磯
 野 昌枝, 磯部 敦子, 磯部 友里, 板津 伊津美, 板橋 美季, 市川 和佳子, 市場 恵子, 伊藤 栄子, 伊
 東 千恵, 伊藤 直美, 伊藤 初美, 伊藤 裕佳, 稲葉 清美, 井上 奈津子, 今井 なみえ, 今西 洋子, 入
 海 英里子, 岩佐 恵, 岩崎 雅子, 岩崎 美奈子, 岩野 美弥子, 植木 誠司, 上田 悦子, 上野 歩美, 薄井
 啓作, 内野 清子, 内山 悦子, 内山 洋子, 宇原 敏子, 梅井 規子, 梅田 正子, 裏山 淳子, 江崎 路
 子, 江田 直子, 枝澤 祥恵, 江本 裕子, 遠藤 好子, 遠藤 浩美, 尾内 浩子, 大麻 淑子, 大神 恵美
 子, 大窪 智子, 大久保 真紀, 大迫 友美, 大島 和美, 大島 加容子, 太田 裕子, 大竹 真代, 大谷 眞砂
 子, 大谷 幸永, 大塚 由紀江, 大西 ひろ美, 大野 清子, 大橋 涼子, 大林 慎代, 大元 好美, 大家
 弘美, 岡田 さわか, 岡田 淑子, 岡田 哲和, 岡本 久仁子, 小川 圭子, 荻野 秋恵, 荻原 淳志, 奥 博
 史, 奥井 直美, 奥田 紘子, 奥野 しのぶ, 小倉 明美, 小倉 倫緒, 小澤 晴美, 小野原 典子, 小島 麻
 理, 垣内 ゆきこ, 角井 多万紀, 梶山 恵美, 柏木 直人, 門田 美穂, 金井 憲, 金子 泉美, 川上 宏
 二, 川崎 啓子, 川崎 政子, 川島 美智子, 川島 祐子, 川田 郁美, 川田 久子, 川野 阿佐, 河野 昌子,
 河野 葉子, 川人 勝, 川元 欣子, 岸 徳枝, 貴嶋 より子, 競 朗子, 北倉 恵美子, 北野 真由美, 北村
 久美子, 木藤 ひろみ, 木下 ひろみ, 木下 ひろみ, 木村 あゆみ, 木村 克子, 木村 澄子, 木村 卓子,
 久木田 美智代, 日下 智賀子, 楠澤 朝日, 久保 朋世, 久保 宏子, 窪田 雄二郎, 隈 美智子, 栗坂 三
 枝子, 栗田 みえ子, 黒崎 奈美, 小池 理絵, 鴻上 和典, 鴻上 智保子, 高峰 司津江, 向山 恵美, 越
 水 律子, 後藤 みか, 小林 明子, 小林 和紗, 小林 貴子, 小室 優美, 小山 千世子, 紺藤 昌美, 今野
 勤, 齋藤 栄子, 齋藤 薫, 齋藤 弘一, 齋藤 智子, 齋藤 真理子, 齋藤 陽子, 竿本 有紀, 坂 由美子, 酒
 井 智帆, 榊原 久美子, 榊原 真奈美, 阪口 さゆみ, 逆井 歌代, 坂田 恭子, 坂梨 礼美, 笹岡 昌子, 笹
 川 裕美, 佐々木 正子, 佐々木 みさお, 佐々木 睦美, 佐藤 あけみ, 佐藤 輝明, 佐野 由紀, 塩崎 司,
 嶋原 久子, 竺原 晶子, 重永 侑紀, 繁原 美保, 芝田 文江, 島村 優子, 清水 美津子, 清水 百子,
 清水 由紀夫, 清水 りえ, 下田 幸子, 生野 香, 新藤 亜紀, 進野 久美子, 杉原 昭子, 鈴木 節子, 鈴

木 紀子, 鈴木 恵, 鈴木 玲子, 鈴木 由紀, 須田 和宏, 鷺見 雅子, 脊尾 幸子, 関 美穂, 関口 智子, 関根 美樹, 曾根 律子, 大條 未帆, 高須賀 佳子, 高田 典子, 高野 けい, 高橋 雅子, 高橋 由美子, 高本 泰子, 高柳 葉子, 田川 千春, 瀧 美智子, 多久島 美代子, 竹内 民子, 武内 康江, 竹内 好江, 竹川 竹代, 田代 昌子, 立花 初美, 辰己 ゆう子, 田中 市子, 田中 賀恵, 田中 加代美, 田中 臣昭, 谷口 祐子, 田畑 久美子, 田村 秀子, 為清 淑子, 千葉 みさ子, 千葉 裕子, 茶谷 裕子, 辻 光治, 辻本 富子, 堤 暢子, 常村 佳代, 鶴野 由美, 寺井 翔子, 寺井 有子, 寺田 陽子, 天明 美穂, 堂前 洋美, 時田 理香, 徳永 桂子, 富井 絵美, 富永 純一, 富永 智子, 友永 幸子, 鳥居 かおり, 内藤 一, 永井 実千代, 永石 美保, 中尾 玲子, 中川 明子, 中川 早苗, 長澤 雅江, 中島 由子, 中島 美子, 中園 明美, 長田 真理子, 長畑 恵子, 中村 桂子, 中村 淑子, 中村 紀子, 中村 美智子, 西 幸代, 西川 弥生, 西口 真美, 西田 美穂, 西田 由美子, 仁科 登代子, 西永 玉枝, 西野 陽子, 西村 淳子, 西村 かほり, 西村 説子, 西村 照子, 西山 こずえ, 西脇 恵美, 野澤 元子, 野原 歩美, 朴 宗筍, 橋西 桂子, 橋本 麻美, 橋本 由希子, 長谷 有美子, 長谷川 万凡, 馬場 佐希子, 浜 千加子, 浜谷 典子, 早川 真理, 葉山 道子, 原 正子, 原 真奈美, 原田 明美, 原田 薫, 原田 和代, 原田 訓子, 原田 成子, 春田 陽子, 日置 三津子, 引原 眞佐子, 秀島 晴美, 平岡 智子, 平子 亜莉沙, 平島 小百合, 平出 敏巳子, 平野 美津子, 平松 喜代江, 平松 重美, 平山 智恵, 廣谷 桂子, 深谷 倫子, 福田 ゆかり, 藤井 いづみ, 藤井 和子, 藤田 秋香, 伏田 綾, 藤田 俊子, 藤野 明美, 藤本 佳子, 藤原 幸子, 二見 敬子, 二矢 都子, 二渡 誠子, 瀧上 裕子, 船倉 浩子, 船越 めぐみ, 古池 哲郎, 庖丁 高子, 細川 一美, 堀井 滋, 堀口 博子, 堀口 美和子, 本村 久美子, 前迫 早苗, 前田 恭子, 前野 仁美, 増田 知巳, 町田 祥子, 町田 裕紀, 松浦 美晴, 松田 直美, 松原 弘子, 松藤 映子, 松本 和代, 松本 由美子, 丸田 昌子, 水田 恵美, 水野 恵子, 三橋 広美, 三野 敬子, 美馬 マキ, 宮里 和則, 宮地 登紀子, 宮原 久美子, 武藤 昌代, 宗像 美由, 村岡 直子, 室垣 美栄子, 室田 純子, 森井 典子, 森田 圭子, 柳井 真智子, 養父 栄子, 山口 薫, 山口 陽子, 山澤 法子, 山下 明美, 山下 祐子, 山田 久美代, 山田 早苗, 山田 貴代, 山平 利恵, 山本 真由美, 行平 敬子, ヨウ フィージェュー, 横大路 英理子, 横山 千幸, 横山 緑, 吉川 あや子, 吉島 百合子, 吉積 尚子, 吉田 千文, 吉原 裕子, 米崎 元美, 李 圭子, 若松 千恵子, 湧川 鳩子, 和治 佐代子, 渡辺 類子, 他 39 人

2010 年度賛助会員 (31 人)

赤木 久美, 秋山 みゆき, 今西 美佐子, 唐橋 京子, 川元 択真, 木村 いほ子, 小岩井 啓一, 佐藤 久美子, 佐藤 晴美, 澤野 まり子, 島田 由佳里, 末益 隆志, 菅村 美知子, 碩 佐和子, 高橋 倫恵, 竹内 嘉子, 田中 紀子, 辻 光治, 敦賀 律子, 内藤 寿子, 南波 優子, 西 洋子, 能邨 勇樹, 濱田 大, 藤原 知美, 榎井 喜洋子, 宮武 知範, 山川 一成, 吉岡 恵, 渡邊 知子, 他 1 人

2010 年度寄付者 (個人延べ 54 人)


阿部 和代, 阿部 真紀, 家本 めぐみ, 市場 恵子, 大野 清子, 岡本 正子, 荻野 秋恵, 角田 尚子, 木下 ひろみ, 栗田 みえ子, 阪口 さゆみ, 島田 ひとみ, 清水 百子, 関口 智子, 側垣 一也, 高田 和子, 高柳 葉子, 田中 豊実, 辻 光治, 土屋 悦子, 徳永 桂子, 鳥居 かおり, 永井 美佳, 中島 美子, 長畑 恵子, 能島 裕介, 葉山 道子, 富士 博良, 藤野 明美, 前田 晋平, 増本 有砂, 松窪 ミツエ, 宮原 久美子, 柳井 真智子, ヨウ フィージェュー, 横山 恵子, 他 5 人

2010 年度寄付団体 (8)

CAP くれよん, CAP プロジェクトやお, CAP かざぐるま, CAP 西京, CAP ハレノヒ, しまもと CAP, ライツオブチャイルドみやざき, CAP たんぽぽ

ほかに、総会運営、研修運営、翻訳、郵送物発送など、多くのボランティアの方に活動をご支援いただきました。ありがとうございました。

CAP スペシャリストを対象に、さまざまな研修を実施しました。(p.16 参照)

2010年度 CAP スペシャリスト研修  研修番号: F4

- トークタイム研修 -
いじめにどう対応するのか


日時: 2010年 11月 14日(日)10:00~16:30(受付 9:45~)

講師: 原田 薫さん(トレーニング委員会 TA 部門/ベシックトレーナー)

会場: とくしま県民活動プラザ 研修室
 参加費: 活動会員 5,250円 (資料代込み・税込)
 (非会員 7,350円)
 定員: 30名 (先着順)

今回のトークタイム研修は、目的を以下の4点に絞っています。
 ①CAPのトークタイムの現場での「いじめ」への対応を実習を通して明確化する。
 ②フィードバックとケースの積み上げ、ケース検討の重要性を確認し、グループでの実践につなげる。
 ③学校との協働の重要性を確認する。(教職員ワークショップの重要性と可能性)
 ④CAPの具体的なトークタイム後の対応の選択肢を拡げる。
 現場では「いじめ」や「友人関係」に関する話を聞くことが多いのが現実。この機会にCAPのスタンスを再確認し、今後の活動の中で活かしていきたいでしょう!

◆今回の研修の内容◆
 ・いじめに対する
 ・いじめについて
 ・トークタイム
 事例を題材
 小グループ
 ・対応トーク
 トークタイム
 ういうことか
 さらに、CAP
 も学んでい

2010年度 CAP スペシャリスト研修  研修番号: W2

障がいのある子どもへのCAP研修

【第1部】キャラバン隊公演 みんな違ってみんないい
 【第2部】知的障がいのある子どもへのCAPの
 実践報告から学ぼう

日時: 2011年 2月 27日(日)10:00~16:30
 (受付 9:30~)

講師: 障がいのある子どもへのCAP チーム


会場: 生活産業プラザ(ECOとしま) 7F 東京都豊島区東池袋 1-20-15
 (各線池袋駅西口下車 徒歩7分)

参加費: 活動会員 5,250円 (資料代込み・税込)
 (非会員 7,350円)
 定員: 40名 (先着順)

CAP スペシャリストのみならずが自覚を持って、知的障がいのある子どもたちへCAPを届ける
 ことができるよう、今回の研修を実施しました。
 第1部のキャラバン隊公演では、体験を通して障がいのある子どもたちへの理解を深め、さら
 に後半で障がいのある子どもを身近で支える保護者の方々からお話を伺います。
 また、第2部では、すでにワークショップ実践のあるCAPグループの経験と共有し、その実
 践を通してさらなる可能性を探ります。
 教職員ワークショップや保護者ワークショップにも必ず活かされます! 知的障がいのある子
 どもたちをもっと身近に感じ、自覚をもって子どもたちと向き合えるよう、一緒に学んでい
 きましょう!

◆今回の研修の目的◆
 【第1部】キャラバン隊公演 みんな違ってみんないい
 知的障がいのある子どもとはどういう子どもなのかを体験し、その子どもたちの姿を保護者
 を通じて学びます。今回は、東京都豊島区のキャラバン隊「いこーろ」の方を招きます。
 キャラバン隊は、障がいのある子どもの保護者を中心に加わり、障がいのある子ども
 のことを知るきっかけづくりのために活動し、学校や地域で活動しています。キャラバン隊
 の公演では、ダウン症や自閉症の子どものこととお話したり、参加者のみなさんに実際に
 体験してもらってどんな気持ちなのかを感じてもらったり、どう接すればいいか、スライド
 等で伝えています。楽しく、面白く、わかりやすいライブ型ならではの工夫が盛り込まれてい
 ます。体験コーナーでは、さまざまな想定を実験に体験し、考えることができます。
 【第2部】知的障がいのある子どもへのCAPの実践報告から学ぼう
 実践報告を聞き、参加者で意見交換を行います。また、チームからは新緑葉の経験、スキル
 の提案などを行います。

NPO法人CAPセンター・JAPAN

2010年度 CAP スペシャリスト研修  研修番号: F2

- CAP 児童養護施設プログラム研修 -
施設職員ワークショップを組み立てる

日時: 2010年 9月 5日(日)10:00~16:30(受付 9:30~)

講師: 重永 侑紀さん(トレーニング委員会 TA 部門/
 CAP 児童養護施設プログラムチームチーフ)

会場: With You さいたま (埼玉県男女共同参画推進センター)
 (さいたま市中央区新緑心2-1-1)

参加費: 活動会員 5,250円 (資料代込み・税込)
 (非会員 7,350円)
 定員: 30名 (先着順)

今回のCAP 児童養護施設プログラム研修は、目的を以下の4点に絞っています。
 ①児童養護施設でCAPプログラムを実施する目的、目標を再確認する。
 ②施設職員との協働の重要性を確認する。
 ③施設職員ワークショップの目的を確認し、施設職員ワークショップのプログラミングを行い、グルー



2010年度 CAP スペシャリスト研修  研修番号: W1

境界線研修 子どもの視点に立つ

日時: 2011年 2月 26日(土)10:00~16:30
 (受付 9:30~)

講師: 徳永 桂子さん(SNPトレーナー)

会場: 生活産業プラザ(ECOとしま) 7F 東京都豊島区東池袋 1-20-15
 (各線池袋駅西口下車 徒歩7分)

参加費: 活動会員 5,250円 (資料代込み・税込)
 (非会員 7,350円)
 定員: 40名 (先着順)

今回の研修は、CAP スペシャリストもまた力をもったおとなという存在であることを自覚・体感し、
 その上で子どもが内なる力を活性化させるための働きかけをする援助者として、子どもを尊重し、どう
 関わっていくかを考えていくために境界線について学ぶものです。
 境界線を意識することで、CAP ワークショップ(子ども・おとな)やトークタイムなどあらゆる場
 がさらに効果的なエンパワメント・アプローチになっていきます。CAP プログラム提供に役立つCAP
 スペシャリストのための境界線を学ぶ特別編として編み立てています。
 子どもたちとよりよい関係をつくっていくために、ぜひ一緒に学びましょう!

◆今回の研修の内容◆
 講演に加え、子どもの視点を体験することや、ゲーム、グループワークを盛り込みます。
 ・人間関係の仕組み - 子どもにとっての境界線(子どもから、おとなってどう見えるのでしょうか)
 ・人間関係を学ぶ「サークルプログラム」- 大切な私・気持ち
 ・援助者/子どものモデルとしておとなができること
 ・境界線を通して、CAP ワークショップを考える
 ・実践対応実習 など

NPO法人CAPセンター・JAPAN

ICAPのトレーナーによる
トークタイム特別研修

日時: 2010年 10月 17日(日) 9:50~16:50

会場: 西宮市市民交流センター

内容: ・トークタイムの目的
 ・アメリカでの実践
 (トークタイムの方針と事例別対応、通報システム)
 ・事例練習 など

講師: Patricia Crimaldi (パトリシア クリマルディ) さん
 ニュージャーシーCAPスーパーバイザー/トレーナー。
 元小学校教師で、児童虐待防止分野で17年間の活動し、全CAP
 カリキュラムのファシリテーターとして現場での豊富な経験を持
 つ。現在は、ニュージャーシー州CAPのスーパーバイザーと、ICAP
 運営の顧問として、Early Childhood CAP Program (幼児期CAP
 プログラム)のスーパーバイザーでもあり、2009年に韓国でCAP
 スペシャリスト養成講座を実施したトレーナーの一人。

講師: Ellen Gallagher (エレン ギャラガー) さん
 ニュージャーシーCAPコーディネーター。
 1988年から活動し、全CAPカリキュラム(小学校、スペシャルニ
 ーズ、ティーン、複学制)の認定トレーナーである。1999年は「No
 More Bullies, No More Victims (いじめ防止プログラム)」の開発に
 携わる。CRC (Curriculum Review Committee・カリキュラム再考
 査委員会)の代表でもあり、2005年には「Strategies For Free
 Children」(「ノ」を語る子どもに)新報)の編集と更新に携わる。

NPO法人CAPセンター・JAPAN

特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN 2010 年度報告書

2011年4月28日発行

編集発行 特定非営利活動法人CAPセンター・JAPAN

〒662-0825

兵庫県西宮市門戸荘 17-34 スマイルヴィラ 105

TEL/0798-57-4121・FAX /0798-57-4122

<http://www.cap-j.net>

E-mail: info@cap-j.net
